



建設機械の製造販売を行う酒井重工業（本社・東京都港区）の現地法人サカイ・インドネシア（SI）は22日、東ジャカルタ工業団地（EJIP、西ジャワ州プカシ県）にある同社工場で、路盤再生工法で用いられるロードスタビライザー「PM550」などを紹介するセミナーを実施した。公共事業・国民住宅省の職員など、オンラインも含め100人以上が参加した。

この日の講師を担当した酒井重工業の技術士、藤田仁氏は「インドネシアでは道路が整備される速さよりも交通量の伸びの方が早い。これにより道路は痛みやすく、インフラ整備にかかる予算が増加。経済成長のマイナスに繋がる」と説明した。

環境に優しく工期短縮

サカイ・インドネシア ロードスタビライザーを紹介

PM550は碎いた路面を再利用し、乳剤を混ぜて新たに道路をつくる。環境に優しく、工事のコストを抑えることができ、施工速度が速いことから、工期の短縮が可能という。シンプルなデザインでメンテナンスしやすいなどの利点を踏まえ、同社は国内以外にも新興国などに向けて輸出拡大を目指していく。

SIの馬場洋社長は「じゃかるた新聞の取材に「PM550のエンジンなどは日本製だが、徐々にインドネシア製部品の割合を40%に近づけていく。国産品認定を目指す」と意気込んでいる。

酒井重工業が海外でPM550の生産をしているのはインドネシアのみ。同社はEJIPの工場で2023年初頭、路面掘削機「ER555F-S」の生産開始を予定しており、国内で事業拡大していく。

（長田陸、写真も）

輸出拡大も目指すという酒井重工業のロードスタビライザー「PM550」